



亡き母への思いが記されている先妣墓碑

山田方谷と両親

山田方谷の名は球、幼名は阿隣、通称は安五郎と呼ばれました。彼はその生涯を通じて母を強く慕い、その教えを心に刻んで生きていきました。方谷六三歳の時、建てた母の墓碑（先妣墓碑）にその思いがよく出ています。

『亡母は西谷信敏の娘、小阪部に生まれ、私の父に嫁ぎ、球と弟・妹を生みました。亡き父は常に我が家はもとと武門であつたが、のち農民になったのを嘆き、

山田方谷は江戸時代末期に活躍した郷土の偉人です。彼は文化二（一八〇五）年、現高梁市中井町西方に生まれ、親や教師の指導に謙虚に従い、自分を優れた人間にするため努力し、豊かな学識と実践力を身に着けました。藩校である有終館の教師となり、家塾の牛麓舎でも教育に情熱を燃やしました。藩主板倉勝静をも教えたことから、絶大な期待と信頼を受けて松山藩（現高梁市）の財政を担当することになり、困難な藩政改革に成功して、質素であつても心豊かに安心して住めるよい社会にするため、誠意をもって全精力をつぎこみました。この方谷について、これからお話していきます。

山田方谷を語る一

私を丸川松隠先生に習わせ、祖先を継いで家を興すよう教えられました。母は必ず傍で父の言葉に同意して、私の頭をなでて、「いとしい子よ、必ずお父さんの志を成しとげるのですよ。しかし、時の勢いによって走りすぎるとつまづくものだ。お願いだから、生涯を立派に終えておくれ」と言われ、私は幼児でしたがこの言葉を肝に銘じて忘れません。（中略）母が没する前、母は疲れ切つて病床に伏しておられました。球が枕もとで、別れを悲しみ泣いていると、私をせきたてて師の家に往かせました。間もなく病が悪くなったと聞いて、深夜走り帰りましたが、すでに息が絶えていました。年は四十歳でした。父もまた翌年に亡くなり、私は、十四、五歳で両親を失いましたが、両親の普段の教えを思うと悲しみで胸がつぶれるようでありました。そこで発奮して苦学しました。ようやく松山藩に仕官がかない、次第に藩の要職を歴任しました。のち病を理由に退きました

が藩の重大事には必ず相談にあずかりました。幼少の頃に母が頭を撫でて諭した教えに今初めて応えることができ、これがこの碑を建てるのを待った理由です。母が我が家に嫁いだ初めの頃の家は貧しく、父を助け家業に励み、収入を増やし、のち僅かながら生活の余裕ができました。それでも竹のかんざし、木綿の衣服で質素な事は昔のままでしたが、私の学資は少しも惜しみませんでした。私は才能のない者ですが、その遺産で学業を成し得て、今日達し得たのは両親のおかげです」と書かれています。

山田方谷の父、五郎吉は家の再建をめざして苦学した人です。若い時は親族である中津井の室で働いて、仕事が終わると夜遅くなくてもその家の長老の戸を叩いて学問を教えてもらいました。方谷が勉強を怠けると、夜遅くても起きて教え下さった長老に申し訳がないと戒められました。方谷は深夜に読書で疲れが出て居眠りがつくと、父の戒めを思い出し、びっ



くりして座り直し、読書に励みました。父の教えがなければ、毎日子供たちと遊んでおり、読書・学問の大切なことが分からなかったと言っています。

母、梶は方谷が三歳頃から文字を書く練習をさせ、四歳になると父親は大きな板額を作つて方谷に書かせて、周辺の神社に奉納しました。奉納額は将来の家の再興を願う意味があつたと思われるます。山田家の守り神の天神社に奉納された「天下太平」の額は現在中井小学校にあります。高岡神社にも同じ内容の額があります。作州の木山神社にも「風月」「竹虎」の板額が奉納されていて、それぞれ小さい手形が押されていて、幼い方谷を偲ぶことができます。これを見た参拝者が、その見事なのに驚き、四歳の子供の書ではあるまいと疑いました。それを聞いた母親は方谷を連れて木山神社に参り、その人の前で書いたので、感心して認めたということです。

中井の近隣に居た人の子孫が聞いたという話に、その人は馬を飼っていたのですが、時々母と方谷を乗せて城下に行つたということです。城下の書の先生に習いに行っていたのかもしれない。

（文・児玉亨さん）



4歳の時に書いた書・中井小学校所蔵（年齢は数え年）



大学附属図書館をご利用ください

吉備国際大学・吉備国際大学短期大学部附属図書館は、社会科学・保健・医療・福祉・心理・知的財産関係の法律・環境関係の和書・洋書等幅広い分野の資料を収集・保存しており、市民の皆さんも利用することができます。各館で主な配置資料が異なりますので、ご利用前に下記の表をご確認いただき、ご来館ください。



名称	配置資料	利用日時	資料の利用
2号館図書館	社会科学、保健、医療、福祉関係の和書	開館日（付属図書館ホームページに掲載の開館カレンダーをご覧ください）のご利用が可能です。 当日、午前9時20分から午後5時20分までに入館手続きを行ってください。手続き後は、当日の閉館時間まで利用できます。（閉館時間は日によって異なります）	【閲覧】閲覧室（開架）の図書・雑誌は自由に閲覧できます。 【複写】著作権法の範囲内で複写が可能です（コピー1枚10円） 【貸出】一般人への館外貸し出しはできません。（※お近くの公共図書館等を通じての貸し出しは可能です） 【視聴覚資料】10号館、14号館図書館では、ビデオ、DVDなどの視聴覚資料がご覧いただけます。（※事前申込書が必要です）
10号館図書館	心理、福祉関係の和・洋書、視聴覚資料、絵本	※視聴覚資料の利用受付は午後4時までです。 ※私物の持ち込みはご遠慮ください。	
14号館図書館	一般教育関係を含めた洋書、知的財産、環境関係の和・洋書、視聴覚資料		

※図書館の蔵書はパソコン (<http://lib.jei.ac.jp/kiui/>)・携帯電話 (<http://lib.jei.ac.jp/kiui/i/>) から検索できます。

《ご利用に際して》

- ・学生以外の方は、氏名・現住所の記載がある公的な身分証明書（運転免許証等）をご持参ください。
- ・ご来館時に各図書館のカウンターにて入館手続きをしてください。
- ・混雑時は入館をご遠慮いただく場合があります。
- ・他の来館者の迷惑になるような場合には、入館をお断りする場合があります。

■問い合わせ 高梁キャンパス2号図書館 ☎②7871 ホームページ <http://lib.jei.ac.jp/kiui/>

成羽病院通信

■問い合わせ ☎④3111

冬から春にかけて流行するロタウイルス

成羽病院 薬剤師 熊本行利

ロタウイルスは小児の嘔吐下痢症（胃腸炎）の原因として、有名なウイルスの一つで、ノロウイルスと同じく感染性胃腸炎を引き起こすウイルスです。感染・発症の多くは生後6ヶ月～2歳の乳幼児が多く、その約8割から9割が集団感染による発症が圧倒的に多いことが知られています。

症状の多くは嘔吐、白っぽい水様性の下痢を起こし、時に脱水、腎不全、けいれんや脳炎・脳症といった中枢神経症状などを合併することもあります。症状が重い場合には入院が必要となることもあります。

なお、ロタウイルスによる嘔吐下痢症は、ワクチン接種によって重症化を9割程度減らすことができると報告されています。現在、ロタウイルスワクチンには、生後6週から32週までの間に3回接種するロタテックと生後6週から24週までの間に2回接種するロタリックスの2種類があり、どちらも口から接種するワクチンです。

ロタウイルスワクチンは、任意接種で接種時期や他のワクチン製剤との接種間隔にも注意が必要です。詳しい事は小児科のある医療機関におたずね下さい。

